

祝

毛馬内の盆踊

ユネスコ無形文化遺産登録決定

ユネスコ無形文化遺産

「毛馬内の盆踊」を含む「風流踊」が令和4年11月30日、ユネスコの政府間委員会における審議を経て、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

ユネスコ無形文化遺産は、伝統的な音楽・舞踊、工芸技術など無形の文化を保護していくことを目的とした「無形文化遺産保護条約」に基づき、人類共通の遺産として、令和4年10月現在、世界全体で530件、日本では22件が登録されています。

本市では、平成21年の「大日堂舞楽」、平成28年の「花輪祭の屋台行事」（山・鉦・屋台行事）に次いで3件目の登録になります。

毛馬内の盆踊

十和田毛馬内地区に伝承される盆踊りで、毎年8月21日から23日にかけて毛馬内こもせ通り（本町通り）で、篝火を囲み常に輪の内側を向いてゆったりとした振りで踊られます。

起源は定かではありませんが、江戸期、文化・文政年間（1804～1830年）に記されたと考えられる菅江真澄の『鄙趣一曲』には「盆踊大の坂ふし」の記事が確認できることから、少なくとも江戸中期には行われていたことが分かります。

情緒豊かで、今日の姿に至るまでの変遷過程を示す貴重でかつ地域的特色が顕著な盆踊りとして、平成10年12月16日に国重要無形民俗文化財に指定されています。

風流踊とは

盆踊りや太鼓踊りなど、各地の歴史と風土を反映して、さまざまな形で伝承されてきた民俗芸能です。華やかな、人目を惹く、という「風流」の精神を体現し、衣装や持ちものに趣向を凝らし、笛、太鼓、鉦などの囃し立て、賑やかに踊ることにより、災厄を祓い、安寧な暮らしがもたらされることを願います。

「風流踊」は、国重要無形民俗文化財に指定されている41件の行事で構成され、東北地方では、毛馬内の盆踊のほか、西馬首内の盆踊（秋田県羽後町）、永井の大念仏剣舞（岩手県盛岡市）、鬼剣舞（岩手県北上市・奥州市）の4件が含まれます。



毛馬内盆踊振興会・保存会会長
馬淵 大三氏

長年にわたり、庶民が創り上げてきた「風流踊」のユネスコ無形文化遺産登録は大きな喜びであり、ひとえに先人の努力と地域の皆さんの協力があつたからこそです。

本日に「感謝」の一言に尽きます。

毛馬内とえば、「盆踊り」。この登録を一つの節目と考え、今後も踊りや大太鼓、横笛、甚句唄などの伝承に力を入れ、毛馬内地区町内会のさらなる団結により「毛馬内の盆踊」の運営体制を強化し、保存・継承に努めてまいります。



生涯学習課文化財振興班
☎ 30-0294

